

丸岩層から見つかった

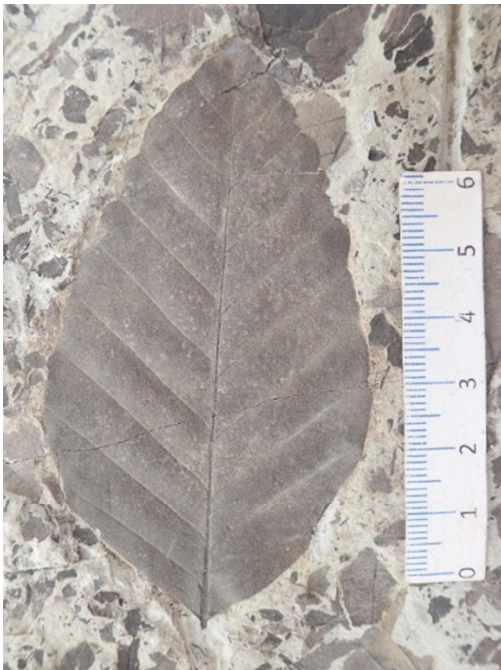
ブナの葉と実の化石

群馬県南西部には350万年ほど前の湖の地層(兜岩層^{かぶといわそう})が分布し、そこからは保存の良い化石が多く採集されてきました。

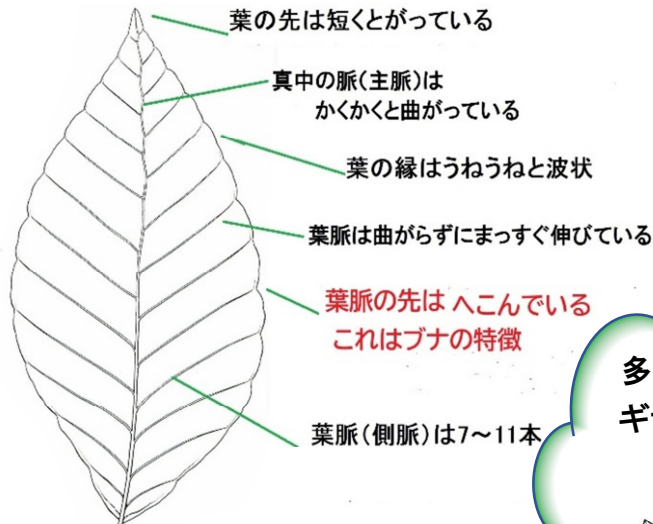
植物化石は数も多く、その中からブナ化石を紹介します。

化石は、現在のブナと同じ形をしています。

300 万年を超える長い時間、命をつないできたことがわかります。

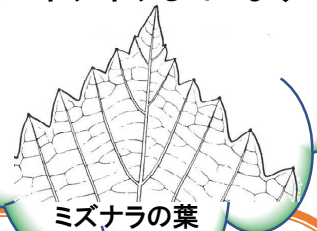


ブナの葉の化石 標本番号 SNM-62



葉のスケッチは 落ち葉図鑑 文一出版

多くの植物の葉先は、ギザギザしています



ブナの木の特徴

- ・高さ30m にもなる**大きな木**
- ・**冷涼な気候**に育つ
- ・東北地方に多く、白神山地のブナの森は世界遺産に登録されている
- ・群馬県では **みなかみ**などに多い
- ・下仁田では標高800m を超える場所に、**ごくわずか**に見られる

ブナの実の特徴

稜が3つある

※ 野生動物の食料として重要

ブナの実の化石
標本番号 SNM-62-d



注 現在この化石の産出地域は国定公園に指定され、化石採集は禁止です